



発行 一般社団法人 日本品質管理学会  
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内  
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507  
 ホームページ:www.jsqc.org/

## CONTENTS

- 1-トピックス 新規投稿区分「研究速報論文」の創設について
- 2-私の提言 流行語との付き合い方
- 2-ルポルタージュ JSQC「日常管理の指針」講習会「日常管理の本質を学ぶ」ルポ
- 3-ルポルタージュ 第18回安全安心WSルポ/ANQ Congress 2018 Almaty/新規研究会の受付/11月の入会者紹介
- 4-JSQC規格頒布のお知らせ/行事案内

## 新規投稿区分「研究速報論文」の創設について

論文誌編集委員長 黒木 学

### はじめに

Total Quality Scienceの刊行にともなう、日本品質管理学会論文誌（以下、論文誌）に投稿される論文数が減少している。そのため、論文誌編集委員会（編集委員会）では、どうやってこの問題に歯止めをかけるかといった議論を繰り返し行ってきた。そのようななかで、編集委員会では、研究発表会における発表件数の増加は論文誌投稿件数増加への大きな布石であると考え、第436回理事会（平成29年7月10日開催）で「優秀発表賞」の創設を提案し、第47回年次大会から本格的に実施することとなった（関西支部では2008年から優秀発表賞制度が実施されている）。そして、研究発表会での発表内容を発表のままで終わらせないためのアイデアの一つとして、編集委員会は、第441回理事会（平成30年1月29日開催）において、新規投稿区分「研究速報論文」の創設を提案し、承認された。このことを踏まえて、本記事では、研究速報論文について紹介させていただきたい。

### 新規投稿区分「研究速報論文」

新規投稿区分「研究速報論文」が対象とするものは「品質または品質管理に関して新機軸の潜在的な可能性を宣言した、速報性のある研究論文」である。この投稿区分に投稿可能な論文は、初回原稿受付日からさかのぼって1年

以内に本学会が主催する研究発表会（支部によらない）で口頭発表した内容を拡張したものに限定される。ただし、優秀発表賞受賞の有無とは無関係に論文を投稿することができる。

### 既存の投稿区分との違い

新規投稿区分「研究速報論文」は以下の点で、報文・技術ノート・調査研究論文・応用研究論文・投稿論説（以下、既存の投稿区分）とは大きく異なっている。

- (1) 潜在的可能性に基づいて論文審査が行われる。研究速報論文では、既存の投稿区分で謳われているほどの完成度の高さが要求されない分だけ、緩やかな論文審査が行われるものと予想される（実際の論文審査レベルは査読者に依存する）。
- (2) 投稿論文に関するやりとりはすべてメールで行われる（郵送では受け付けない）。
- (3) 投稿論文の価値を正当に評価できると思われる2名以上の審査員が学会の内外を問わず選定・指名され、審査員による投稿論文審査が行われる。ただし、投稿論文の内容は研究発表会で発表されたものであることから、著者名が審査員に知らされる（審査員は匿名である）。
- (4) 投稿論文は少なくとも再々審査までに「掲載可」あるいは「論文誌編集委員会の意見どおり改めれば掲載

可」との判定に至らなかった場合には、掲載不可との判断を下される。すなわち、査読者による審査は最大で2回しか行われぬ。

- (5) 論文のスクリーニング・査読依頼・掲載可否の判断が編集委員長と担当幹事によって行われる（編集委員会の開催を待たない）。
  - (6) (5)に関連するが、編集委員長と担当幹事は定例の編集委員会において論文審査の進捗状況報告を行う。しかし、編集委員会が開催されるまで掲載の可否判断が保留されるといったことはない（他の投稿区分と同様、論文投稿は随時受け付けている）。
  - (7) 既存の投稿区分の標準査読期間はおおむね1か月であるのに対して、研究速報論文の標準査読期間はおおむね2週間である（実際の査読期間は査読者に依存する）。
- なお、論文投稿のモラルを守っていただくという意味では当然のことではあるが、既存の投稿区分と同様に、研究会発表予稿集に掲載された原稿とほとんど変わらないものや論文として体裁をなしていないものは受け付けないことに注意されたい。

品質管理界の活性化のためにも、会員みなさまにはぜひとも研究発表会で発表していただくとともに、「研究速報論文」への投稿も検討していただけると幸甚である。

## ● 私の提言 ●

## 流行語との付き合い方

日立金属(株) 小野 眞



昨年の流行語大賞はインスタ映えと付度だそう。社会人に限れば、働き方改革も流行語でしょう。

機械学習、ビッグデータ、IoTなどの言葉も紙面に踊っています。本学会でも「製造業のためのビッグデータの解析あり方研究会」が発足しました。品質管理に携わる我々は、このような時流とどのように付き合いやすいのでしょうか。

私自身は波瀾万丈とまではいきませんが、内外資含め3社を渡り歩き、様々な製品の品質データを利活用してきま

した。また、国内外の様々な方々の解析結果に目を通して、意見交換をしてきました。その経験から思うことを述べさせていただきます。

まず、どんなにデータが増えたとしても、基本的に忠実にデータをしっかり見つめなければ効果的な利活用はできません。データが大きい、項目が多いと言いつける人が大勢います。それは統計や品質管理の基礎知識があったとしても、ビッグデータを操るスキルが足りないためではないでしょうか。品質管理者と言えども、高度な情報処理のスキルが不可欠な時代になってきたと感じます。ビッグデータを手懐け、QC七つ道具をうまく活用してデータをしっかり見るのが大切です。

次に、機械学習を誰でも手軽に使い

る時代になってきました。しかし、基本的に忠実にその手法の特長を理解しなければ、効果的な利活用ができないばかりではなく、意思決定を誤る危険が潜んでいます。試しに使ってみたら、想像以上の精度で予測できたという話をよく耳にします。身構えず、まず試してみることはとてもよいことです。しかし、交差検証を行わずに喜んでいく方々をよく見かけます。丸暗記したことがそのまま試験に出れば、できて当然です。しかし、応用問題を解けてこそ、真の学習能力と言えます。

最後に、働き方改革に関しても一つ提言です。ビッグデータや機械学習とうまく付き合うことで、労働時間を短縮できるかもしれません。しかし、本学会はどうでしょうか。学会活動も仕事の一つではないでしょうか。他の多くの学会の研究発表会は、平日開催です。本学会はなぜ週末に行うのでしょうか。これでは同僚に聴講を勧められません。参加者の低下が問題視されている中、思い切った改革が必要な時期に来ています。

## JSQC「日常管理の指針」講習会 「日常管理の本質を学ぶ」ルポ

山本 和芳 (標準委員会)

2017年10月24日(火)の午後、日科技連東高円寺ビルにおいて、JSQC規格「日常管理の指針」講習会が開催されました。2013年6月にJSQC-Std 32-001「日常管理の指針」が制定された後、同年9月に講習会があり、今回は2回目となります。定員50名で設定されていましたが、52名の参加者で会場は満席状態でした。

冒頭、椿会長から、「日常管理は呼吸のように当たり前ではあるが非常に重要なものである。今回の講習会を通じて、企業活動のあるべき姿をもう一度確認いただきたい。」とのお挨拶の後、安藤標準委員会委員長から、規格制定のねらいや経緯について説明がありました。また、2016年5月、JSQC規格が初めてJIS化(JIS Q 9026)されたこと、英語pdf版や「方針管理の指針」の紹介があり、本規格が2018年に制定後5年を迎え、見直し(継続・改正・廃止)を予定しているとの案内もありました。

続いて、規格制定に携わった委員の皆様から、規格

の内容を5つのパート「日常管理の基本」「日常管理の進め方(標準化)」「日常管理の進め方(異常の検出と処置)」「上位管理者の役割、部門別の日常管理」「日常管理の推進」に分けて、わかりやすく丁寧に解説していただきました。

最後の全体討論(質疑応答)の場では、「日常管理は自主管理が前提ではあるが、実際には難しい場合(特に海外)がある。定着するまでは、スタッフの支援が不可欠。」「上位管理者の役割は、現場を良く見て、ルールを守ることの大切さを示すコミュニケーションが必要。」「日常管理導入の直接的な効果を数値で表すことは難しいが、結果として必ず業績向上に繋がる。品質不祥事を犯すようなことにはならない。」など、実経験に基づいた解説、回答をいただきました。

参加者からは、「日常管理は手を抜くと一瞬に崩れてしまうというお話が印象的でした。」「このような講習会は東京だけでなく各地区でも開催してもらいたい。」などの声があり、大変有意義な講習会でした。

## 第18回「安全・安心のための管理技術と社会環境」ワークショップ

伊藤 誠 (安全・安心社会技術連携特別委員会)

このワークショップは、日本原子力学会、日本人間工学会などとの共同主催によるものであり、原子力に限らず、様々な分野の安全・安心を確保するための管理技術やリスクコミュニケーションなどに関する議論を継続的に行っている。第18回目を数える今回は、「安全文化の醸成と全員参加の実現」をテーマとして、事例発表とパネルディスカッションを行った。

事例発表では、原子力分野から倉田聡氏 (原子力安全推進協会)、医療分野から種田健一郎氏 (国立保健医療科学院)、建設分野から小原好一氏 (前田建設工業、本会会長) が登壇した。倉田氏は、原子力分野における安全文化についての取り組みと課題を紹介したうえで、安全を希求する組織文化として「安全文化」をとらえ、組織の文化を変えていくという視点を持つこと、そのためにマネジメントシステムに組み込むことの重要性を主張された。種田氏は、医療分野における安全文化野醸成のために「チーム」を機能させることの重

要性を述べ、米国を期限とするTeamSTEPPSという訓練プログラムの導入、推進の事例を説明された。小原氏は、建設分野における安全を向上させるためのTQMの導入、推進を通じて全員参加の体制を構築していく事例を報告された。

パネルディスカッションでは、中條武志氏 (中央大学) がコーディネーターとなり、講師の3名に、五福 明夫氏 (岡山大学)、木村 浩氏 (パブリック・アウトリーチ)、飯塚 悦功氏 (東京大学) の3名が加わり、安全文化をどう定義するか、安全文化の醸成のために全員参加が必要であるか、ビジネスの中でどう位置付けていくか、などという論点を中心に、フロアからの質問に答えつつ、パネリスト同士での意見交換が行われた。安全文化は結局のところスローガンに過ぎないのではないか、本当の意味で「全員」が参加するのは難しいのではないか、などといった本音ベースの刺激的な問題提起もあり、議論が尽きることはなかった。

### ANQ Congress 2018 Almaty

2018年9月19日(水)~21日(金)にカザフスタンのアルマティにて、ANQ Congress 2018が開催されます。

JSQCからの発表希望者はJSQCを通じて発表申込み、アブストラクト等を提出していただきます。

アブストラクト：A4・2ページ、英語及び日本語

発表申込み締切：2018年3月中旬

申し込み先：電子投稿サイトを準備中です。

詳細につきましては、JSQCホームページに掲載いたします。

### 新規研究会を受け付けます

研究開発委員会では、本年度に設置する新規公募研究会の申請を受け付けます。奮って申請してください。特に、若手会員を主査とする研究会を歓迎いたします。

研究期間：2018年4月~2019年3月 (1年間)

申請方法：「新規研究会設置申請書」(様式204-1)をホームページよりダウンロードし、ご記入の上、郵送で本部事務局宛にお送りください。  
[http://www.jsqc.org/ja/oshirase/kenkyuukai\\_shinkai.html](http://www.jsqc.org/ja/oshirase/kenkyuukai_shinkai.html)

申込締切：2018年3月23日(金)必着

研究会の申請と運営：

- 研究会の申請にあたり、申請者は共同研究者(学界・産業界)を5~10人位事前に働きかけて集め、申請書に記入する。理事会承認後JSQCニュースでメンバーを公募する。
- 研究目的と年間の研究活動計画を作成する。
- 1研究会のメンバーは20人までとする。
- 会場は原則として日本科学技術連盟東高円寺ビル会議室を利用する。
- 時間は18時~20時とし、食事を支給する。ただし、会場の都合がつけば午後でも可とする。
- 研究会運営費は一人1回当たり1,150円(内訳：通信費・資料代・食事代)。ただし、年間開催数は11回を限度とする。

### 2017年11月の入会者紹介

2017年11月2日の理事会において、下記の通り正会員12名、準会員3名、職域会員2名、賛助職域会員3名の入会が承認されました。

.....  
**(正会員12名)** ○伊藤 潤平 (ウイングアーク1st) ○細野 繁 (日本電気) ○久野 靖治 ○日高 徹司 (日本たばこ産業) ○後藤 裕朗 (三菱日立パワーシステムズ) ○遠藤 誠二 (東海大学) ○人見 聡一 (田中貴金属工業) ○大島 浩幸 (豊田合成) ○鍵谷 浩司 (東レ・プレジジョン) ○細美 靖和 (永大化工) ○荒井 崇 (トヨタ車体) ○西田 俊介 (東海理化)

.....  
**(準会員3名)** ○雪本 泰久・都倉 里佳 (電気通信大学) ○松田 和樹 (大阪電気通信大学)

(職域会員2名) ○山口 正志 (YKK)

○飯山 泰弘 (小松製作所)

(賛助職域会員3名) ○藤井 信彰 (日本

特殊陶業) ○深谷 公宣 (トヨタ車体)

○三神 均 (統計センター)

正 会 員 : 1881名

準 会 員 : 61名

職域会員 : 46名

賛助会員 : 142社188口

賛助職域会員 : 3名

公共会員 : 17口

## 事務局からのお知らせ

### JSQC規格頒布のお知らせ

この度、JSQC-Std 00-001「品質管理用語」の5年毎の定期見直しがまとめられましたので、ご希望の会員の方に実費で頒布いたします。

JSQC-Std 00-001: 2018「品質管理用語」

1. 申込方法: E-mailまたはFAXにて資料名、部数、会員番号、氏名、所属、住所、送付方法、電話番号をご連絡の上お申込みください。

申込先: 本部事務局 E-mail apply@jsqc.org FAX 03-5378-1507

2. 資料代: 1冊 (A4判54頁) 会員2,080円、非会員2,600円  
(税・送料別)

詳 細 : [http://www.jsqc.org/ja/oshirase/kikaku\\_list.html](http://www.jsqc.org/ja/oshirase/kikaku_list.html)

振込み先: 一般社団法人 日本品質管理学会

三菱東京UFJ銀行 渋谷支店 普通預金 4313820

資料は入金を確認の上、送付いたします。

## 行 事 案 内

### ●H28年度 QMS-H研究会 成果報告シンポジウム

テーマ: 組織で保証する医療の質 QMSアプローチ

日 時: 2018年3月3日(土)10:00~17:50

会 場: 早稲田大学西早稲田キャンパス  
63号館2階03、04、05会議室

参加費: 無料

申込締切: 2月23日(金)

申込先: シンポジウム事務局

E-mail: qms-h-secretary@tqm.  
mgmt.waseda.ac.jp

TEL 03-5286-3304

FAX 03-3232-9780

詳 細: <http://www.jsqc.org/ja/division/med/iryu.html>

### ●第399回事業所見学会 (東日本)

テーマ: 一家に必ず見かける“味の素”の商品力を学ぶ

日 時: 2018年3月14日(水)13:00~16:00

見学先: 味の素 川崎工場

定 員: 30名

※同業他社のお申し込みはご遠慮ください。

参加費: 会 員3,000円 非会員4,500円

準会員2,000円一般学生2,500円

※当日払い

申込先: 本部事務局

詳 細: <http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h300314>

### ●JSQC規格「品質管理教育の指針」講習会 (本部)

テーマ: TQMの実践に必要な人材を育てる

日 時: 2018年3月15日(木)13:00~17:00

会 場: 日科技連 新宿本部

小田急第一生命ビル4階

定 員: 80名

プログラム:

1. JSQC規格「品質管理教育の指針」制定のねらい

2. 品質管理教育の基本 (4章、5章)

3. 品質管理教育の計画 (6章)

4. 研修プログラムの運営 (7章)

5. 品質管理教育の評価・改善 (8章)

6. TQM推進段階別・部門別・地域別の品質管理教育 (9章、付録)

7. 全体討論 (質疑応答)

参加費: 会 員4,320円 (締切後4,860円)

非会員6,480円 (締切後7,020円)

準会員2,700円一般学生3,780円

※当日払いは別金額

申込締切: 2018年3月8日(木)

詳細・申込: <http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h300315>

### ●第7回 科学技術教育フォーラム

テーマ: 次期学習指導要領の目指す人と社会

日 時: 2018年3月24日(土)13:00~17:45

会 場: 電気通信大学100周年記念ホール

定 員: 90名

参加費: 1,000円、懇親会1,500円 (当日払い)

プログラム:

- 第1部「(招待講演) 次期学習指導要領で目指すもの」

長尾篤志氏、鹿野利春氏 (文部省)

- 第2部「(招待講演) 新時代の問題解決教育の理念と方法」

- ・次世代のための算数数学科の授業づくり

西村圭一氏 (東京学芸大学)

- ・問題解決における目的設定の理念と方法

山下雅代氏、鈴木和幸氏

(電気通信大学)

- 第3部 パネルディスカッション

司会: 椿 広計氏

(JSQC前会長・統計センター)

詳細・申込: <http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h300324>

### ●第106回クオリティトーク (東日本)

テーマ: QFDと上手く付き合うためのコツ

ゲスト: 永井一志氏 (玉川大学)

日 時: 2018年3月28日(水)18:30~20:50

会 場: 日科技連東高円寺ビル5F研修室

定 員: 30名

参加費: 会員3,500円 非会員4,500円

準会員・一般学生2,500円

(含軽食・当日払い)

申込先: 本部事務局

詳 細: <http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h300328>

### ●第116回研究発表会 (本部) 発表募集

日 時: 2018年5月26日(土)

会 場: 日科技連 東高円寺ビル

(1)申込期限

発表申込締切: 3月20日(火)

予稿原稿締切: 4月23日(月)必着

参加申込締切: 5月16日(水)

(2)研究発表の申込、優秀発表賞の応募方法

<http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#300526>

(3)参加申込

本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

### 行 事 申 込 先

JSQCホームページ: [www.jsqc.org/](http://www.jsqc.org/)

本 部: FAX 03-5378-1507

E-mail: apply@jsqc.org

中部支部: FAX 052-203-4806

E-mail: nagoya51@jsa.or.jp

関西支部: FAX 06-6341-4615

E-mail: kansai@jsqc.org